

令和7年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

「自主」「誠実」「創造」の校訓を旨とし、これからの社会に貢献できる深い教養と豊かな人間性を備え、主体的に物事に挑戦する姿勢を持ち続ける知・徳・体のバランスの取れた人間力のある人材を育成する。			
【生徒に育みたい力】	・志と夢を持ち、将来の自分を想像する力	・社会や自身の課題に真摯に向き合い、主体性を持って考える力	
	・努力を継続し、挑戦し続ける意欲と行動力	・人権を尊重し、多様性を理解して繋がる力	

2 中期的目標

1	生徒の未来を拓く「確かな学力」の育成	[以下、学校教育自己診断を自己診断と表記]
	(1) 知識・技能の習得に加えて、思考力・判断力・表現力と主体性・多様性・協働性を含んだ「確かな学力」の定着をめざす。	
	ア 文部科学省「DX ハイスクール」の指定を受けている強みを生かし、デジタル人材の育成を図り、文型・理型を問わず、AI 活用等、プレゼンテーション力の育成を促進する。	
	・津田高版の探究活動（総合的な探究の時間）を充実し、上の項目とも連携しながら進めていく。	
	※ 生徒が DX または探究活動等による校外プレゼンテーション発表会に参加する。（新規）	
	※ 卒業生徒数における大学理系学部進学率を令和9年度に12%以上にする。（R4：9.7%，R5：11.2%，R6：11.6%）	
	イ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業を実施しながら、一人ひとりの教育的ニーズに応じた取り組みを大切にしていく。高い学力伸長を求める生徒への対応、多様な状況にある生徒への対応等、個々の生徒に即した適切な対応の充実を、できる範囲の中で最大限取り組んでいく。	
	・1人1台端末とプロジェクター等のICTを活用して最適化された学びを実践する。	
	※ 自己診断（教職員）「主体的・対話的な授業やICT活用した授業実践」、令和9年度まで85%以上を維持。（R4：94%，R5：86%，R6：90%）	
	※ 自己診断（生徒）「授業のわかりやすさ」、令和9年度まで80%以上の肯定の維持。（R4：70%，R5：73%，R6：86%）	
	ウ グローバル社会を生き抜く力の育成のため、英語専門コースを中心に、より高いレベルで英語5領域の運用能力を育成する。	
	※ 英語コースにおける当該科目授業アンケートの授業満足度において、3.2以上での安定をめざす。（R4：3.0，R5：3.0，R6：3.6）	
	(2) 校内外での学習習慣の定着をめざす。	
	ア 放課後学習を実施し、知識・技能の一層の定着を図る。	
	・授業においては、課題など自主学习につながるものを各教科で行う。	
	※ 1・2年生の自主学習の平均時間を、令和9年度には0.60時間にする。（R6：0.44H）	
	イ 各種検定試験の受験を促進し、資格取得における学習への動機づけを図るとともに将来の進路に生かす。	
	※ 漢字・数学・英語・情報の資格検定の申込者数を増加させて、令和9年度までに100人以上にする。（R5：71人，R6：79人）	
	(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現のための取り組みを推進する。	
	ア 自分の希望する進路実現に取り組めるよう、将来に向けてのキャリア展望を育成する。	
	※ 自己診断（生徒）の進路指導に関する項目において、令和9年度まで90%以上の肯定の維持。（R4：87%，R5：89%，R6：94%）	
	※ 自己診断（3年生）「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」、令和9年度まで90%以上の肯定の維持。（R6：95%）	
	イ 最新の情報収集に基づく進路種別の生徒・保護者向け説明会を実施する。	
2	力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成	
	(1) 生徒理解に基づく指導の促進と安全・安心な学校生活を支援する体制の確立、規律ある学習環境の確保を行う。	
	ア カウンセリングマインドのある生徒指導により、生徒の自律性・自己肯定感を高め、規律ある学習環境の確保を図る。	
	※ 自己診断（生徒）「学校のルールを守ろうとしている」、令和9年度まで95%程度を維持。（R4：95%，R5：94%，R6：96%）	
	※ 年間遅刻者数を令和9年度に800人以下をめざす。（R4：1020人，R5：895人，R6：1061人）	
	イ 悩みや不安のある生徒が安心して学校生活が送れるよう、スクールカウンセラー等の専門家や関係機関と連携して教育相談支援体制を充実する。	
	※ 自己診断（生徒）の教育相談・いじめ対応に関する項目において、令和9年度まで肯定90%以上を維持する。（R4：84%，R5：86%，R6：90%）	
	(2) 伝統ある学校行事（生徒会活動）や活発な部活動により主体性・協調性を育成する。	
	ア 生徒主体で企画・運営する学校行事を実施する。	
	イ 部活動運営の主体性を育むためCM（キャプテン・マネージャー）会議の充実を図る。	
	※ 自己診断（生徒）の「行事」「部活動」に関して、令和9年度まで肯定80%以上を維持。（R4：76%，R5：76%，R6：88%）	
	※ 1年生の部活動加入率を令和9年度に60%にする。（R4：49%，R5：50%，R6：53%）	
	(3) コミュニケーション能力の向上を図り、他者を尊重する心を育成する。	
	ア 「あいさつが飛び交う津田高」の伝統を継承し、あいさつ運動を促進する。	
	※ 自己診断（生徒）「誰に対してもあいさつするようにしている」、令和9年度まで肯定90%以上を維持。（R4：89%，R5：91%，R6：94%）	
	イ 人権を尊重する教育を推進する。	
	ウ 短期海外研修（希望者）及び海外の学校とのオンライン交流を実施し、国際感覚を育成する。	
3	学校力、教員力の向上	
	(1) 津田高の魅力発信の強化と地域連携の促進	
	ア 学校説明会、中学校訪問等により生徒の活躍する姿を周知し、「津田高の魅力」をアピールする。	
	イ 地域コミュニティの行事や近隣企業のイベント等に参加し、「地域の中の津田高」をアピールする。	
	ウ 学校WebページやSNS等を活用して、生徒の活躍する姿が鮮明に伝わるように情報発信する。	
	※ 学校Webのブログ「枚方津田ニュース」の更新を令和9年度には180回以上にするとともに、公式SNS・部活動SNSを継続する。	
	ブログ「枚方津田ニュース」（R4：9回，R5：98回，R6：166回）	
	(2) 働き方改革の取り組み	
	ア 校務におけるデジタル化の推進、業務の見直し・効率化	
	※ 教職員ストレスチェックの総合健康リスクに関して、令和9年度まで100未満を維持。（R4：119，R5：123，R6：91）	
	(3) 創立40周年に向けた取り組み	
	ア 令和7年度に創立40周年を迎えるにあたり、記念誌・記念事業の取り組みを完了する。	

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析[令和 年 月実施分]	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R6年度値]	自己評価
1 生徒の 未来を拓く「確かな学力」の育成	(1) 知識・技能の習得、「確かな学力」の定着 ア DX ハイスクールによる取組み及び津田高版の探究活動の充実	(1) ア・AI 活用等、授業等で本格的に取り組み、プレゼンテーション力の育成やデジタルに関する力の育成を図る。 ・その延長線上として生徒の協力も得ながら中学生対象「デジタルものづくり教室」を実施する。 ・津田高版の探究活動（総合的な探究）を充実し、上の項目とも連携して進める。	(1) ア・DX ハイスクール指定の継続を実現する。[新規] ・中学生対象「デジタルものづくり教室」を2回以上実施[新規] ・DX または探究活動等による校外プレゼンテーション大会に1人以上出場する。[新規] ・卒業生徒数における大学理系学部進学率11%以上[11.6%]	
	イ 主体的・対話的で深い学びを実現する授業、高い学力伸長を求める生徒対応、多様な状況にある生徒対応、ICTを活用した授業実践	イ・1人1台端末とプロジェクター等のICTの活用を含め、主体的・対話的で深い学びを実現する授業、教職員間の授業見学や研修等で教育力の向上を図る。 ・高い学力伸長を求める生徒や多様な状況にある生徒への対応、7限め授業の実施、講習・補習を含め、一人ひとりの教育的ニーズに応じた取組みを実践する。	イ・自己診断（教職員）「主体的・対話的な学びのある授業やICT活用した授業実践」の肯定90%[90%] ・教員間授業見学週間を設定し、研鑽の機会とする。2回[2回] ・自己診断（生徒）「授業のわかりやすさ」の肯定88% [86%]	
	ウ 英語専門コースを中心に、より高いレベルで英語5領域の運用能力を育成	ウ・英語専門コース及び英語授業全般において英語5領域の運用能力を育成。	ウ・英語専門コース該当科目の授業アンケート「授業満足度」3.4以上[3.6]	
	(2) 学習習慣の定着 ア ・放課後学習の実施 ・授業においては自主学習につながるものに取り組ませる	(2) ア・本年度、効果的な運用ができるように、放課後学習をブラッシュアップする。 ・課題など自主学習につながるものを各教科で取り組ませる。	(2) ア・1・2年生の自主学習の平均0.5時間[0.44時間]	
	イ 検定試験の受験促進	イ・英検、漢検、数検、情検等の受験を促進し、受験対策指導を行う。	イ・各種検定試験の申込者数90人[79人]	
	(3) キャリア教育の充実と希望の進路実現 ア 自分の希望する進路実現のためのキャリア展望の育成	(3) ア・津田高版「キャリアパスポート」を充実し、希望する進路実現に向けた取組みを促進する。	(3) ア・自己診断(生徒)「進路指導」の肯定90%以上の維持[94%] ・自己診断（3年生徒）「自分の希望した卒業後の進路選択に満足」90%以上の維持[95%]	
	イ 進路種別の生徒・保護者向け説明会の実施	イ・多様な進路種別に対応した、生徒・保護者向け説明会の実施	イ・進路説明会を1年生2回以上、2年生3回以上、3年生8回以上実施[1年3回, 2年4回, 3年10回]	

府立枚方津田高等学校

2	力強く社会を生きるための「豊かな人間力」の育成	（１）生徒理解に基づく指導と安全・安心な学校生活、規律ある学習環境 ア カウンセリングマインドのある生徒指導、自律性と自己肯定感、規律ある学習環境の確保 イ 教育相談支援体制の充実 （２）学校行事や部活動による主体性・協調性育成 ア 生徒主体で企画・運営する学校行事 イ CM 会議の充実 （３）コミュニケーション能力の向上と他者を尊重する心の育成 ア あいさつ運動の促進 イ 人権を尊重する教育 ウ 短期海外研修及び国際交流活動	（１） ア・納得感のある生徒指導を行い、自律性と自己肯定感を高め、規律ある学習環境の確保を図る。 イ・教育相談・支援・人権に関する事例等も含めた研修を実施し、教職員の理解と力量を高める。 （２） ア・生徒が主体となるように学校行事の企画・運営を工夫し、生徒の自信と自己肯定感を育む。 イ・CM 会議での情報共有とともに、生徒・教職員で連携しながら、１年生の入部率の上昇を図る。 ・中学生対象の「部活動体験会」や合同練習等の交流を推進する。 （３） ア・「誰にでもあいさつできる津田高」のため、あいさつの重要性を説くとともに、生徒による日々のあいさつ運動を実施。 イ・人権文化講演会を芸術鑑賞会と連携して実施する。 ウ・短期海外研修及び海外の学校とオンライン交流を実施する。	（１） ア・遅刻者数 960 人以下。[1061 人] ・自己診断（生徒）の「規範意識」の肯定 95%以上を維持[96%] イ・教育相談・支援・人権に関する教職員研修を 2 回実施[2 回] ・自己診断（生徒）での「教育相談・いじめ対応」の肯定 90%以上を維持[90%] （２） ア・自己診断（生徒）の「行事」「部活動」に関する肯定 85%以上を維持[88%] イ・１年生の入部率を昨年度より上昇。[53%] ・部活動交流に参加する中学生 120 人[広報集約分 110 人] （３） ア・自己診断（生徒）の「誰に対してもあいさつするようにしている」90%以上を維持[94%] ・生徒による朝のあいさつ運動を年間 100 回以上[105 回] イ・今年度は人権文化講演会を芸術鑑賞会と重ねて実施する。 ウ・短期海外研修の実施 1 回[1 回] ・オンライン交流 2 回[2 回] ・これらの活動のうち、集約が間に合うものについて、肯定 95%以上[98%]	
3	学校力・教員力の向上	（１）津田高の魅力発信と地域連携 ア 学校説明会・中学校訪問等による魅力発信 イ 地域イベント等への参加 ウ 学校 Web ページや SNS を活用した情報発信 （２）働き方改革 ア 校務におけるデジタル化の推進、業務の見直し・効率化 （３）創立 40 周年 ア 創立 40 周年の記念誌・記念事業	（１） ア・学校説明会、中学校訪問等により生徒の活躍を周知し「行きたい津田高」「伸ばす津田高」をアピールする。 ・中学生とその保護者に授業を公開する。 イ・地域の行事や近隣の企業等のイベントへの参加、異なる校種間との生徒交流を実施する。 ウ・学校 Web の充実に取り組む。 ・Web、ブログ、SNS 等による情報発信。 （２） ア・校務におけるデジタル化を推進するとともに、業務の見直し・効率化を図る。 ・保護者への文書配付のデジタル化を継続する。 （３） ア・創立 40 周年における記念誌・記念事業の取組みを完了する。	（１） ア・中学校訪問 100 回以上 [107 回] ・中学生とその保護者に授業公開 1 回[1 回] ・中学生向け広報紙の発行 6 回以上[9 回] イ・地域の行事等への参加 4 回以上[4 回] ウ・学校 Web のブログ「枚方津田ニュース」更新 170 回[166 回] （２） ア・教職員ストレスチェックの総合健康リスクの 100 未満を維持[91] ・自己診断（保護者）「情報提供」の肯定 86%[84%] （３） ア・記念式典は行わず、記念誌の発行、記念事業の取組みを完了する。	